

第一貨物

運賃改善の提案継続 品質や効率化前提に

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）は適正運賃収受に向けた取引先への改善提案に継続的に取り組んでいる。品質の向上を前提とした、収益力強化に力を入れていく。

（矢田 健一郎）

「燃料高騰、社員の待遇、その他必要な経費を考えた場合、いまの運賃は十分とはいえない水準にある。コスト構造に見合った収益が得られるような運賃に絶えず変えていかなくてはならない」と武藤社長。

特積みにとっては、経

を要請すべく運動を続け

ている（武藤社長）。「今期は上期も取り組んできたし、下期も引き続き取り組んでいる（同）。その際重要なことは、品質の向上をはじめ、省燃費運転や運行の効率化など常日ごろの取り組みだという。「高い品質や

確実な仕事を行なうことが、改善を提案していく前提になる（同）。

震災後、運行効率は改善傾向

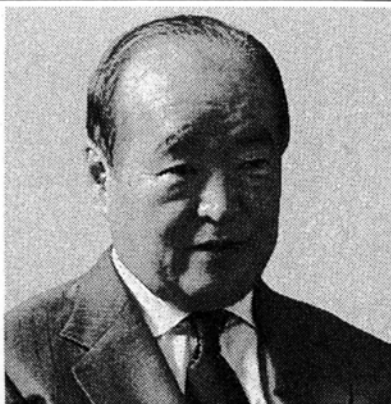
特積み事業では、三月の東日本大震災をきっかけとした運行の効率化も進めてきた。

同社は震災直後の混乱や燃料不足に対応するため、「運行便をいったん東

京を中継する形に変更。同時に、限られた運行便数でも荷物を輸送できるような組み合わせを行い、困難な状況を乗り切った（同）。

その後、品質やリードタイムの点から東京を中継する形は事態が収束した段階で元に戻した一方、「震災時に必要に迫られる形で進めた運行の効率化は、その方向性をそのまま踏襲し、取り組んでいる（同）。

武藤社長は、「品質向上や効率化に向け努力を続けながら、コスト構造の現状を訴えて改善提案を続けていく」としている。



「高い品質を前提に、現状を訴え、運賃の改善提案を継続していく」と武藤社長